

課題別委員会「人口縮小社会における問題解決のための検討委員会」(第25期第5回)

議事要旨

日時： 2022年8月24日(水) 10時～12時

会場： Zoom 会議

出席者(敬称略、五十音順)

委員：

荒井秀典、石原理(幹事)、石井クンツ昌子、伊藤公雄、遠藤薫(委員長)、遠藤求、大沢真理、落合恵美子、金子隆一(副委員長)、斎尾直子、白波瀬佐和子、武石恵美子(幹事)、筑本知子、馬奈木俊介、水口雅、望月真弓

事務局：松本拓馬、小山堯

議事

1. 前回議事要旨の承認等

遠藤委員長から前回議事要旨の修正についての報告、メール審議の報告、学術フォーラムの確認がされた。

2. 水口雅委員話題提供「日本の子どもの死亡の原因とその対策」

報告は資料のとおり

<質疑等>

- ・ 10代自殺の男女別データは？いじめのデータは男児に多いはずだが。  
→コロナの影響データはまだない(2021.11.15 発表データでは、男性の自殺が多い)。医療と教育の連携不十分に対する意見についての進捗として、子ども家庭庁が機能するかどうかは課題である
- ・ 日経新聞によれば、コロナ禍で20代女性の自殺増加が著しい いじめ自殺、男子に対する性暴力による自殺可能性があるのではないか。
- ・ 虐待や無関心は事故に含まれるか？  
→含まれる、身体的虐待は増加していないが、心理的虐待の増加が顕著している
- ・ 事故死に対する予防手段未整備で、虐待に福祉と行政の連携が必要では？  
→警察、児相の連携要 国際比較のデータシェアは？
- ・ 葉酸強制摂取についての一般の理解が進んでいないのでは？  
→妊娠前からの葉酸摂取増加が必要。英国の髄膜瘤現象は人工中絶、我が国では貧困と関連している
- ・ 乳幼児事故が多い問題の原因は？  
→家屋構造の問題もある
- ・ 胎児死亡の減少と関連は？

→高齢女性では流産が多い、マクロでは影響なし

- ・ 保険診療との関連は？

→わからない

- ・ 障害のある児童生徒の増加があり、特別支援学校・学級が不足しているが？

→発達障害は世界的に増加傾向にあり、インクルーシブ教育の要請もある。

### 3. 荒井秀典委員話題提供「老年医学の立場から」

報告は資料のとおり

<質疑等>

- ・ 誤った情報による高齢者への影響を防ぐには？

→医学的に正しい知識の発信は可能

- ・ 医学会宣言に歯科は入っているか？ 健康診断に歯科が入っていない現状があるが？

→入っている、オーラルフレイルの視点がある

- ・ 高齢期の自立度における男女差があるという報告があるが男女差の詳細は？

→男女差は就労の効果が大きいので、今後変わる可能性大。

- ・ 骨折、認知症の男女差が影響。転倒対策の日米差は？

→差はないと考える

- ・ 高齢者の個人差拡大については？

→年齢とともに拡大することには、経済格差、教育歴の影響が大きい

- ・ 高齢者を 75 さいではなく 70 歳にという案はなかったのか？

→70 歳という議論もあったが、身体能力が 10 年若返っていることを根拠にした。基本的にはエイジフリーの議論をしたい。

- ・ 個人差拡大と経済格差の因果関係は？

→社会科学の委員の意見も踏まえて検討している

### 4. 筑本知子委員「人口縮小社会における社会インフラの維持」

報告は資料のとおり

<質疑等>

- ・ 土木でも同様の問題がある。人材確保において応用技術（産業界）に近い人材の育成の課題がある

- ・ ドローンの活用などは進んでいるのか？

→監視の部分では電力会社が試行的に活用を始めているが、メンテナンスは人手に依存しているのが現状

- ・ 人材不足について「再教育」による専門家育成はありうるのか

→専門性や経験値の問題から難しいかもしれない

- ・ この分野の人材に女性はどの程度いるのか？

→調べてみたい

#### 5.今後の活動について

遠藤委員長から、年内 1-2 回の委員会開催し、その後提言をまとめることの提案があり、了承される。提言の期限 2023 年 1 月 31 日が期限である。

提言内容については、委員長がたたき台を示し、メールで意見を集約することとする。提言後に学術フォーラムの開催も検討することとした。

以上